

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 情報科学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		研究科が中心となって実施した博士課程教育リーディングプログラム「ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム」の事後評価において、グローバルに通用する質保証された修了生が輩出されていること、幅広い多様なキャリアパスを描くことができていることなどが認められ、最高のS評価を得たことが評価できる。
【研究】	SS	平成30年度計画の達成状況が非常に優れている。
		文科省Society5.0実現化研究拠点支援事業(11大学の申請中、本学の1件のみ採択)をはじめとし、JST CREST、科研新学術領域等の大型研究プロジェクト37件(平成29年度34件)を推進したこと、重点プロジェクト研究費が14.3億円(平成29年度から113%(7.6億円)増加)に達したこと、ダイキン工業との包括連携においては、共同研究・委受託研究(13件、6名)およびAI人材養成プログラム(4件、3名)などの実施に大きく貢献していること、2名が文部科学大臣表彰(科学技術賞)を受賞したことなど、総合的に非常に高く評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		組込み適塾(組込みシステム産業推進機構)を通じて、社会人を対象とした先進的組込みシステム技術者の人材育成プログラムを実施し、国内外でのニーズ把握、教育・学修状況のモニタリングに基づく、カリキュラムの改善を継続的に行い、42機関から過去最高の57名(講座受講者延べ数は778名)の修了者を輩出したことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		グローバルナレッジパートナーである上海交通大学 電子情報・電気工学科との間で、博士ダブルディグリー・プログラムを締結し、令和元年度から学生受け入れを開始することになったこと、また、学術交流協定のもと、従来の情報分野に加えて、スマートシティ分野(スマートキャンパス・スマートデータ)についても上海交通大学との間で設けられた戦略的マッチングファンドに新規プロジェクトを採用し、研究者間の積極的な交流を開始したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 外国大学との国際共同学位プログラム数について、前年度に引き続き、新規に締結した点が高く評価できる。 また、常勤教員一人当たりの競争的資金(科研費以外)の採択金額について、積極的に取り組むことで実績を非常に大きく伸ばしていること、かつ大学実績に大きく寄与していることが高く評価できる。</p>
--